

どうする？

保護猫の

室内飼育

～うまく猫を迎えるための七つ道具と5ステップをご紹介～



千葉県動物愛護センター

保護猫を迎えるための七つ道具

※なれていない成猫を想定しています。

①三段ケージ



猫をケージに閉じ込めるなんてかわいそうと思われる方もいるかもしれませんが、新しい環境に慣れていない猫にとって、いきなり人がいる室内に放たれるより、ケージという自分だけのスペースにいる方が安心できます。上段にくつろげるハンモックやベッド、中段にエサ皿・水皿、下段にトイレや爪とぎを置きましょう。

②目隠し (シーツやバスタオル)



怖がりの猫は、外から丸見えだと落ち着きません。シーツ等でケージ全体を覆い、外から見えないようにして落ち着ける空間を作ってあげましょう。

ケージ生活に慣れてきたら、上段だけ、寝床部分だけと徐々に目隠しで覆った部分を少なくしていきましょう。ベッドやハンモックでくつろぐ姿が見られれば、落ち着いた証拠です。

③隠れ家

(段ボールやハンモック)

暗くて狭い箱等に身を隠すことは、ストレスの軽減につながります。飼い主は姿が見えないと心配になるかもしれませんが、安らげる場所を確保しましょう。



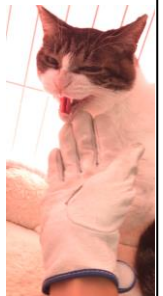
④まごの手・ハブラシ棒 (ハブラシの柄に棒を延長したもの)



警戒心が強い猫は怒ったり、恐がったりして、人が手で触れられない場合があります。猫は首から上を撫でられるのが好きですが、信頼関係が無い間は猫パンチがとんできてもいいかもしれません。そんなときはまごの手やハブラシ棒を使い、安全な距離から優しくなでてあげましょう。

⑤革手袋

「猫にひっかかれるかも！」と緊張しながら猫をさわると、人の緊張が伝わり猫も警戒を強める場合があります。革手袋をつけることでひっかき傷から手を守れるため、安全に人馴れを進めることができます。革が苦手な猫の場合、手袋にさらにバスタオルを巻いてみましょう。既に手で触っても嫌がらず、ひっかいたりしない猫の場合は不要です。



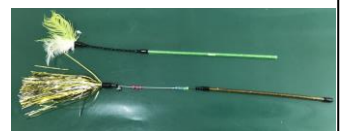
⑥液状おやつ

食べることが好きな猫に有効です。人を警戒している猫でも、スプーンや「まごの手」の先につけた液状おやつは食べてくれる場合があります。



⑦おもちゃ (ねこじゃらし等)

活発で遊ぶことが好きな猫に有効です。運動量が増え、ストレスも減り、警戒心が緩んでいきます。



5ステップで猫との距離を縮めよう

※なれていない成猫を想定しています。

Step1【保護したら、まず手術】

まずは動物病院で不妊去勢手術を受けさせましょう。手術は繁殖防止だけでなく、ストレスの軽減や脱走防止にも効果的です。



Step2【三段ケージになれさせる】

人に馴れる前にいきなり家中を自由にさせた場合、逃げ回り隠れる等、家の中で野良猫化する恐れがあります。初めはケージで世話をしましょう。猫が怒ったり恐がったりしているうちは、可愛がりたい気持ちをごく我慢して、目も合わせず無関心をよそおい、淡々と世話（食事・水・トイレ砂交換）だけでいいでしょう。猫は少しずつ、ケージが自分の新しいなわばりで、ご飯をくれる人が自分の味方だと認識していきます。また、トイレがきちんとできるか観察しましょう。

Step3【人になれさせる】

人が見ている前でご飯を食べてくれるようになったら、日々の世話に加えて、声かけをしながら、一日数回「液状おやつ」をあげてみましょう。引っかけたりかまれたりしないように、初めは「まごの手」や「ハブラシ棒」の先に液状おやつを付けて食べさせましょう。

同様に、「ねこじゃらし等のおもちゃ」でも遊んであげましょう。猫は飼い主のことを「嫌なことをしないでおやつをくれる人、遊んでくれる人」と認識するようになります。

Step4【もっと人になれさせる】

猫がおやつやおもちゃに反応するようになったら、時々「まごの手」の先やおもちゃの持ち手の先などで猫の頬や顎の下、頭等をなでてみましょう。

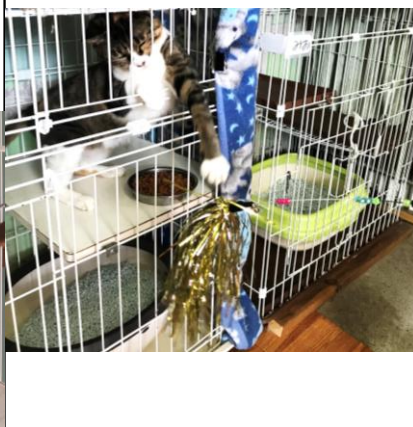
「液状おやつ」を「まごの手」の先につけ、おやつをなめ終えたあとに「まごの手」でなでてあげると比較的受け入れられやすいです。これを毎日繰り返して、変化を観察しましょう。さらに「まごの手」を徐々に短く持ち、人の手に近づけましょう。最終的には人の手から直接食べられるようになるまで、段階を踏みましょう。

引っかけたりや咬まれたりしそうな場合は必ず革手袋を装着しましょう。ポイントは、おやつをなめさせている最中に、さりげなくなでることです。

Step5【部屋になれさせる】

ケージ内でリラックスしており、おやつをねだったり、なでさせてくれたりするくらいまで人に慣れてきたら、いよいよ部屋に出していい頃合いでしょう。そのおすすめの時間帯は警戒心が緩む夕方～夜です。

いきなり部屋に出しっぱなしではなく、初めは数分だけにとどめ、落ち着きを見ながら少しずつ自由時間を増やしていきましょう。初めはケージを置いている部屋に限定し、必ずケージに戻すようにしてください。食事時間の数十分前に部屋に出せば、おなかをすかせているので、いつも通りごはんの皿をケージに入れた時に中に入ってくれるでしょう。



飼い主様へお願い

これらの方法は、あくまで一例で、猫には個体差があります。大事なのは、「猫のペースに合わせる」ということです。特に子猫の時期、人との関わりがどの程度であったかによって、なれるまでの日数は様々で1カ月、半年、1年以上かかる場合もあります。日々の変化をよく観察して、ゆったりした気持ちでお世話をしてください。また、その子に合うならし方を試してみてください。

中には、性格的にどうしてもなれるのが遅い猫もいます。そのような場合も、その子の「個性」として受け入れて接していただければと思います。

その他の便利道具

- **猫キャッチャー（捕獲器）**：屋外で餌を食べに来るが、警戒心が残っており逃げてしまうような猫を保護する場合に活用できます。動物愛護センターや保健所で貸出しされている場合もあります。
- **キャリーバッグ**：病院へ連れて行くときだけでなく、災害避難時にも欠かせません。布製は破れたり、猫がファスナーやマジックテープを開けてしまう場合がありますので、プラスチックタイプがおすすめです。また猫は外が見えると怖がってしまうので、落ち着かせるために布等で目隠しをするとよいでしょう。
- **大型洗濯ネット**：病院へ連れていきたいが、キャリーバッグを嫌がる猫を捕まえる場合に活用できます。ネットをそっと上から猫にかぶせて丸ごと包み込み、ファスナーを閉めます。警戒する猫の場合はタオルで目隠しをして、タオルごとネットをかぶせてしまいましょう。暴れて爪切りをさせてくれない猫にも有効で、手足を1本ずつファスナーから外に出して爪を切ることができます。
- **キャットタワー**：猫は犬と比べ、走り回る運動より上下に動くことを好みます。部屋で飼育する場合に設置し、十分運動させましょう。
- **所有者明示用品（首輪、迷子札及びマイクロチップ）**：飼い主が迷子対策を怠ったために帰ることができない猫が多くいます。「うちの子は大丈夫。」ではなく、日頃から備えましょう。またマイクロチップは背中下の皮下に埋め込むため、動物病院にて麻酔無しで装着が可能です。万が一首輪が外れてしまっても、保護された先で飼い主を調べることができます。

